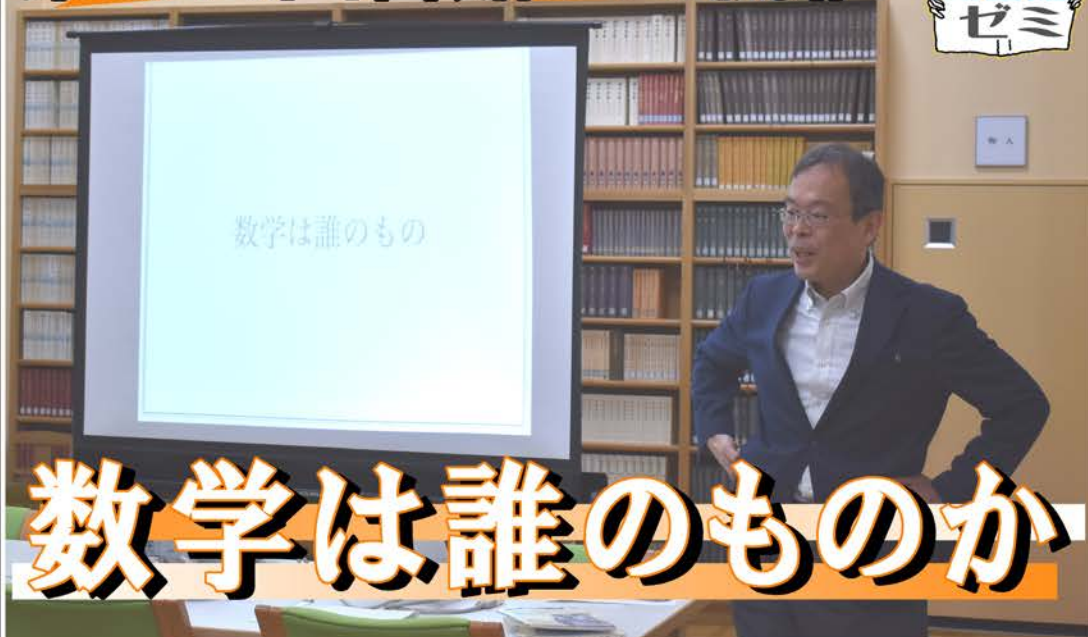


第4回図書館ゼミ開催



数学は誰のものか

▲数学について熱弁される福原先生

福原先生は図書館ゼミの最初に「『数学観』とは人や立場によって違うものである」と話された。

福原先生は数学と自然界の「『自然界は数式によって記述される』というのが現代自然科学の立場である。しかし私は『自然界は数式によってなぜか記述される』のように『なぜか』が入ると思っている」と自論を述べられ、その理由を「なぜなら、アインシュタインがニュートンの理論を覆したように、100年後には今正しいとされていることがどうなっているかわからないからである」と説明された。また数学的なる力は何かという

12月11日の放課後に第4回図書館ゼミが開催され、数学科の福原淑介先生が「数学は誰のものか」と題して講演された。今回の図書館ゼミは初めての理系の先生によるものであった。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号

なぜ数学を勉強するのか

ヨーロッパでは、
高貴な人々、つまり貴族の人々がやっていた。

日本では、
武士や農民がやっていた。

つまり、

幅広い層のたしなみ

ことについて「数学的な見方や考え方、力とは論理的に考えることだとも言われる。しかし私はこれは数学のほんの一部しか表していないと考えている。私は、数学的なる力を『本質を見抜く力』だと捉えている。物事の全体を『こうではないか』と見抜き、その



▲福原先生はおすすめの本の紹介もされた。

後論理的に考えていくのが数学である」と話された。最後に図書館ゼミを「基礎から専門というように学ぶのではなく最初に専門的なことを知って学ぶ意欲を高めてから勉強をする」とよい。みなさんが『〇〇観』と呼べるものを持つことを願っています。それを夢見て、日々の授業を頑張っていきましょう」と締めくくられた。

講演後の感想を福原先生は「難しいことをしているような感覚はなかった。一緒に楽しませてもらった」と明かされた。そして「『〇〇を今勉強しています』というのを教えてほしい。卒業後でも数学以外の分野でもいいから教えてくれるとうれしい」とメッセージを送られた。